

平成 18 年 1 1 月分 検査結果の概要

簡略な説明のため、若干正確性を欠く面もありますが、正確には従来どおり個表をご覧ください。

放流水等水質調査結果（（1）表）

最終排水口での測定結果。

代表項目	項目の説明	処理目標値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。	500 (4～8月限定)	99～2200	問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	20	3.6～14	問題のない値でした。
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	20	2～19	15 日の値が 19 と高めでしたが、13 日からの降水量（43mm）が多かったことによる影響と思われます。
有害物質等 (mg/l)	細目協定で定めている全ての有害物質等（砒素などの重金属類、PCB などの有機塩素化合物、シマジンなどの残留農薬など 35 項目）について測定した。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未満もしくは異常のない数値。	問題のない値でした。

地下水（シート下）と、2本の井戸水のモニタリング自動測定結果

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0 が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		5.7～7.1	従来と変わりなく、問題のない値でした
EC (mS/cm)	溶けているイオンの種類により差異はあるが、イオンの濃度がたかいほど数値が大きい。		0.5～1.2	従来と変わりなく、問題のない値でした
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。		1未満～74	降水が続いたためシート下地下水に濁りが見られた。

公共用水域水質調査結果（（2）表）

エコパークの下流、古志茂橋（中田川）採水したものです。また古志茂橋の上流に落ちている生活排水の影響を調べる為、その排水口とそのすぐ下流からも採水しました。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
SS (mg/l)	数値が高いほど、濁りが多い。	50	27	降水の影響により通常より高い数値となっていますが、基準内で問題のない値でした。

塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、 分けつ期 700～1000 以上 になると、稲作に障害があ るといわれている。		341～380 生活排水 26	問題のない値でした。 また生活排水は26と低い値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物な どの汚染が進んでいる。	5	4.9～5.8 生活排水 2.4	環境基準より少し高い数値が出ていま すが、エコパークの排出水が3.6で環境 基準以下でしたので、流路途中からの影 響(当日の雨等)が考えられます。生活 排水は2.4と問題のない値でした。
全窒素 (mg/l)	水中の有機物が分解され る過程でいろいろな形態 の窒素化合物が生成され るが、その窒素の総量。		2.3～2.6 生活排水 1.4	問題のない値でした。生活排水は1.4 と問題のない値でした。環境基準はあり ません。 なお同時に測定した硝酸性窒素及び亜 硝酸性窒素も環境基準の範囲内で問題 のない値でした。

今回の測定では生活排水に汚れは見られませんでした。

悪臭調査結果（（3）表）

処分場及び各施設から近隣に悪臭を発生していないか、敷地境界で臭気を測定したものです。

測定結果：

- ・ 臭気指数、臭気濃度とも許容限度以下で、問題ありませんでした。

農業用水水質調査結果（（4）表）

農業用水として使用している防災調整池から採水調査したものです。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
pH	7.0が中性、それより高いとアルカリ性、低いと酸性を示す。		7.5	問題のない値でした。
BOD (mg/l)	数値が高いほど有機物などの汚染が進んでいる。	5mg/l以下	1.7	問題のない値でした。
DO (mg/l)	数値が高いほど水に溶け込んでいる酸素の量が多い。	5mg/l以上	10	問題のない値でした。
塩化物イオン (mg/l)	活着期 500～700 以上、分けつ期 700～1000 以上になると、稲作に障害があるといわれている。		25	問題のない値でした。
硝酸性窒素及び 亜硝酸性窒素 (mg/l)	土壌や水中の有機物分解でアンモニア塩が生成され、更に硝化菌により分解されたもの。	10mg/l以下	0.31	問題のない値でした。

粉じん（空气中浮遊アスベスト）調査結果（（5）表）

稲川集落内道路と、敷地内 6 地点(敷地境界及び処分場外周道路)および処分場内 4 地点（非飛散性アスベスト埋立て作業現場）の計 11 地点で空气中に浮遊しているアスベストを調査しました。

調査結果：

- ・ 非飛散性アスベスト廃棄物の埋立処分場(作業中)で空気 1 ㍓中に浮遊物質が 1.6～4.8 本計測されましたが、敷地境界基準の空気 1 ㍓中 10 本以内であり 問題のない数値でした。
- ・ 敷地境界および処分場外周道路、稲川集落内道路では空気 1 ㍓中 0.3 本未満 で問題のない値でした。

地下水水質調査結果（（6）表）

3 ヶ月毎にシート下地下水、4 本のモニタリング井戸水を採水して総合評価したもの。

代表項目	項目の説明	環境基準値	測定値	コメント
塩化物イオン (mg/l)	水位により多少の変化はあるが、大きく変わることはない。 塩分濃度の指標となる。		19～27	従来と変わりなく、問題のない値でした。
全窒素 (mg/l)	有機物を含んだ地層に水が浸透し、色々の形態の窒素化合物が地下水に溶け出してきたもの。		0.53～5.0	従来と変わりなく、問題のない値でした。
有害物質等	法で定められている全ての有害物質等（砒素などの重金属類、PCB などの有機塩素化合物、シマジンなどの残留農薬など 36 項目）について測定した。	細目協定に掲げるそれぞれの値	定量下限値未滿もしくは異常のない値でした。 基準の無いものも特に異常を示すものはありませんでした。	問題のない値でした。

エコパーク施設排出物調査結果（（7）表）

水処理施設から排出される脱水汚泥の有害物質等を調査しましたが、いずれも基準値以下の問題のない値でした。

埋立量年次推移（平成 11 年度から平成 17 年度までは測量実績値）

	単年度(m3)	累計(m3)	残容量(m3)
平成 11 年度	76,464	76,464	1,407,536
平成 12 年度	117,876	194,340	1,289,660
平成 13 年度	154,102	348,442	1,135,558
平成 14 年度	84,916	433,358	1,050,642
平成 15 年度	106,886	540,244	943,756
平成 16 年度	97,026	637,270	846,730
平成 17 年度	92,195	729,465	754,535
平成 18 年度(4～11月)	70,034	799,499	684,501